

はな組だより
臼井幼稚園
令和6年5月27日発行



5月も終わりに近づき、暑い日が増えてきそうですね。今年は昨年にも増して暑いとの予報がされていて、健康も電気代も心配です。

母の日参観にお越しいただき、ありがとうございました。ご家庭で過ごしている時と、教室に在る時とは少し違うお子さんを面白くご覧いただけただけではないでしょうか。ご家庭ではわがママが言えますが、幼稚園ではわがママはなかなか通用しません。それ故ストレスもかかるでしょう。幼稚園は集団生活なので、勝手気ままは許されません。私はそれでも個人の精神の自由は尊重するべきと考えていますが、人の迷惑になることをした時や、クラスの約束事として話したことを守れなかった時は、叱ることもあります。それが幼稚園という教育の場で身につける最低限の事です。その最低限のことができないと、子どもは自分の命を守れないということになってしまいます。私たちは子どもたちをがんじがらめにはしていません。子どもは保護本能を持っていて、今この先生から離れたら危ないということを知っています。だから遠足にも(ほぼ)安全に行けるのです。

保護者の皆さまには、子どもを甘えさせて欲しいのですが、甘やかさないでくださいと、いつもお願いしています。甘えさせることと、甘やかすこととは180度違います。泣くからお菓子を与えるのは甘やかしです。子どもは泣けばお菓子をもらえると覚えてしまいます。幼稚園でも同じようなことをする子がいっぱいいます。子どもが「見て！聞いて！」と言って来たらスマホを置いて話を聞いてあげる、ぎゅっと抱きしめてあげることが甘えさせることです。あなたのことを、いつも見ているよ、大好きだよ、と遠慮なく、最大に伝えてください。

さて、インクルーシブ教育となんだか最近になって賑やかに言われていますが、この言葉を聞いたことはありますか？わかりやすい図があったので、下に添付してみました。

インクルーシブ教育とは？

インクルーシブ教育とは、国籍や人種、言語、性差、経済状況、宗教、障害のあるなしにかかわらず、すべての子どもが共に学び合う教育のこと

現在の日本の教育	インクルーシブ教育
特別な支援が必要な子どもと、そうでない子どもを分けて、別々の場所で教育する	国籍や人種などの違いに関係なく、すべての子どもが同じ場所で共に学び合う

インクルーシブ教育を普及させるには、大人たちの次のような行動が必要

01 多様な人たちの話を聞く	04 アンコンシャス・バイアスに気づく
02 子どもたちに互いの違いを知る環境を用意する	05 社会的障壁を取り除く
03 子どもたちへの見方を変える	

ご存じのように、臼井幼稚園では色々なお子さんが在園しています。今に始まったことではなく、昔から入園を希望されるお子さんをお断りしたことはないかと前園長からも聞いています。当園以外の幼稚園や保育園を断られて、臼井幼稚園に辿り着いたという保護者の方もいらっしゃいます。世間では“インクルーシブ教育”と謳われているほどインクルーシブ教育を実践しているところは多くないようです。近年増えている発達障害のお子さんや人種の違うお子さんが、共に同じクラスに在ることは、本当は、正直なことをいうと難しいことではあります。

でも他の子ども達が、サポートの必要な子どもたちに、私たちが特別教えたわけではないのに優しく助けてくれたり、声を掛けてくれたりしてくれます。言葉が通じなくても手を繋いで、仲良くできるし、発語がない子どもも不思議な能力でコミュニケーションをとっています。そういう子どもたちに私たちはいつも感動をもらっています。

名称をつけてノーマライゼーションを訴えなければならぬほど、日本という国が健常であること以外に対して排他的であることを知らなければなりません。高齢の方、障害のある方、人種や国籍の違いを自然に受け入れられる人でありたいし、未来を担う子ども達が自然に受け入れられるように育ててくれたらいいなと思います。

そして、幼稚園併設の児童発達支援事業所PONOの開設の日が近づいて参りました。子どもたちの困り感が少しでも緩和できたらという思いです。幼稚園ではやっていけるけれど、小学校に行ったら難しいのではないかと、という危惧を持っているのは私たちだけなのでしょうか。今のうちに、できることを少しでも増やしておきたいと思われる方は、PONOの併用をお考えください。

園長 志田 裕美子

＜年少組今月の目標＞

- 健康・・・汗を自分で拭く。
- 人間関係・・・グループの友だちと協力する。
- 環境・・・自分の持ち物やロッカーを整理する。
- 言葉・・・挨拶と返事をする。
- 造形・・・七夕製作、描画、絵手紙。
- 音楽・・・「きらきら星」「はたけのポルカ」「うちゅうせんとうた」「時計よ眠れ」